

取扱説明書 - 日本語



ServerView Suite

Base Configuration Wizard

ServerView Operations Manager V5.0

2010年10月版

DIN EN ISO 9001:2008 に準拠した 認証を取得

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、

このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2008

基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を

満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH

www.cognitas.de

著作権および商標

Copyright © 1998 – 2010 Fujitsu Technology Solutions.

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名とソフトウェア名は、各メーカーの商標名および商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、および Hyper V は、米国およびその他の国における

Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel および Xeon は、米国 Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国にお

ける登録商標または商標です。

目次

目次	3
1 はじめに	5
1.1 旧版からの変更点	7
1.2 ServerView Suite のマニュアル	7
1.3 表記規則	8
2 基本設定ウィザードのメイン画面	11
2.1 「必要条件」ステップ(基本設定ウィザード)	13
2.2 「サブネット」ステップ(基本設定ウィザード)	14
2.3 「アクセス制御」ステップ(基本設定ウィザード)	16
2.4 「イベント管理」ステップ(基本設定ウィザード)	19
2.4.1 「共通設定」ステップ(基本設定ウィザード)	21
2.4.2 「メール設定」ステップ(基本設定ウィザード)	23
2.5 「アップデート管理」ステップ(基本設定ウィザード)	26
2.6 「しきい値管理」ステップ(基本設定ウィザード)	28
2.7 「設定の確認」ステップ(基本設定ウィザード)	29
2.8 「完了」ステップ(基本設定ウィザード)	31
3 基本設定ウィザードの使用	33
3.1 基本設定ウィザードの開始	33
3.2 基本設定ウィザードの終了	33
3.3 ServerView Operations Manager の設定の定義	33
3.3.1 ServerView Operations Manager の要件の確認	34
3.3.2 検索操作サブネットの指定	35
3.3.2.1 新規サブネットの追加	35
3.3.2.2 サブネットの削除	35
3.3.3 ユーザ/パスワードリストの作成	36
3.3.3.1 ユーザ認証の削除	36
3.3.4 メール設定の定義	37
3.3.5 アラーム処理設定の定義	37
4 ヘルプについて	39
4.1 Help の呼び出し	39
4.2 ウィザード	39
4.3 お気に入りへ保存	40
4.3.1 トピックをお気に入りへ保存	40
4.3.2 検索結果をお気に入りへ保存	40
4.4 ヘルプの検索	40
索引	41



1 はじめに

基本設定ウィザードでは、次に示す ServerView Operations Manager の重要な設定を指定できます。

- ServerView Operations Manager が正しく機能するための要件を確認できます。13 ページの「必要条件」ステップ(基本設定ウィザード)を参照してください。
- ServerView Operations Manager はサーバリストを使って動作します。このリストには登録済みのサーバすべてが含まれます。新規サーバの検索操作を開始するネットワークエンティティを指定できます。14 ページの「サブネット」ステップ(基本設定ウィザード)を参照してください。
- さまざまな認証情報に対して、パスワードが暗号化されたユーザ/パスワードリストにユーザ ID を格納できます。16 ページの「アクセス制御」ステップ(基本設定ウィザード)を参照してください。
- 管理端末に Event Manager がインストールされている場合は、次の設定を定義できます。
 - アラーム処理の共通設定(37 ページのアラーム処理設定の定義を参照)
 - メール転送の設定(37 ページのメール設定の定義を参照)

ServerView Event Manager は ServerView Suite のイベント管理のコンポーネントです。インストール後、このコンポーネントは Windows のスタートメニューおよび ServerView Operations Manager の両方から利用できます。

Event Manager 機能には、使いやすい Web ベースのグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) があります。このインターフェースでは、確実に信頼できる、システム異常についての情報をすばやく入手できます。アラームメッセージを受信する結果や動作状態を定義できます。ネットワークにあるサーバの可用性は重要な要素です。したがって、サーバの可用性を危険にさらすかもしれない動作状態をすべて通知するように Event Manager を設定することが重要です。

- 管理端末に Update Manager がインストールされている場合、次の設定を定義できます。
 - アップデートリポジトリを自動でアップデートするかどうかを定義します。26 ページの「アップデート管理」ステップ(基本設定ウィザード)を参照してください。
 - 設定ウィザードを起動し、アップデート管理のグローバルパラメータを設定します。26 ページの「アップデート管理」ステップ(基本設定ウィザード)を参照してください。

ServerView Update Manager は、ServerView Suite のアップデート管理のコンポーネントです。Update Manager は、PRIMERGY サーバにあるハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントのオンラインアップデートを管理します。Update Manager は、サーバのアップデートパッケージすべてを含んだアップデートリポジトリを使用します。

- ServerView しきい値管理では、PRIMERGY サーバのしきい値の監視をカスタマイズできます。しきい値管理では、物理サーバ、仮想ホスト、および仮想マシンまたはゲストシステムの 3 種類のサーバを監視できます。パフォーマンスの監視としきい値の管理を有効にできます。28 ページの「しきい値管理」ステップ(基本設定ウィザード)を参照してください。

ServerView Threshold Manager はServerView Suite のしきい値管理のコンポーネントです。

基本設定ウィザードは、初めて ServerView Operations Manager を起動したときに自動で表示されます。また、ServerView Operations Manager の開始ページまたは ServerView のメニューバーからいつでも起動できます。33 ページの**基本設定ウィザードの開始**を参照してください。

1.1 旧版からの変更点

このマニュアルは ServerView の基本設定ウィザード(ServerView Operations Manager V5.0) を対象とし、2010 年 3 月発行のオンラインマニュアル『ServerView Base Configuration Wizard』に代わるものです。

このマニュアルは、次の点に変更または拡張されています。

- スクリーンショットがすべて更新されました。
- 新規: 「しきい値管理」ステップ
このステップでは、パフォーマンスの監視としきい値の管理を有効または無効にできます。28 ページの「しきい値管理」ステップ(基本設定ウィザード)を参照してください。
- 基本設定ウィザードは、管理者権限を持つユーザアカウントでのみ起動できます(ユーザ: administrator)。



1.2 ServerView Suite のマニュアル

ServerView Suite のマニュアルは、各サーバシステムに付属の ServerView Suite DVD 2 に収録されています。

また、インターネットから無料でダウンロードすることもできます。オンラインドキュメントは、<http://manuals.ts.fujitsu.com> の「Industry standard servers」のリンクの下にあります。

1.3 表記規則

この マニュアルでは以下の表記規則を使用します:

表記	説明
	データの損失やデバイスの損傷の可能性があるリスクを表示します。
	追加関連情報とヒントを表示します。
太字	インターフェイス要素の名前を示します。
等間隔表示	パスおよびファイル名など、出力やシステム要素を示します。
太字の等間隔表示	キーボードを使用して入力するテキストを示します。
青字の文字列	関連するトピックへのリンクを示します。
ピンク字の文字列	既に表示したリンクを示します。
<abc>	実際の値と置き換える必要がある変数を示します。
[abc]	オプション(構文)を示します。
[key]	キーボード上のキーを示します。大文字のテキストを入力する場合、[Shift] キーを指定します。たとえば、A を入力する場合 [SHIFT] + [A] を押します。2 つのキーを同時に押す場合は、2 つのキーをプラス記号で連結して示します。

画面

いくつかの画面はシステムに依存しているため、表示される詳細はシステムによって異なります。また、システム固有の差異は、メニューオプションとコマンドに関連している場合があります。

2 基本設定ウィザードのメイン画面

基本設定ウィザードを開くと、メイン画面が表示されます。

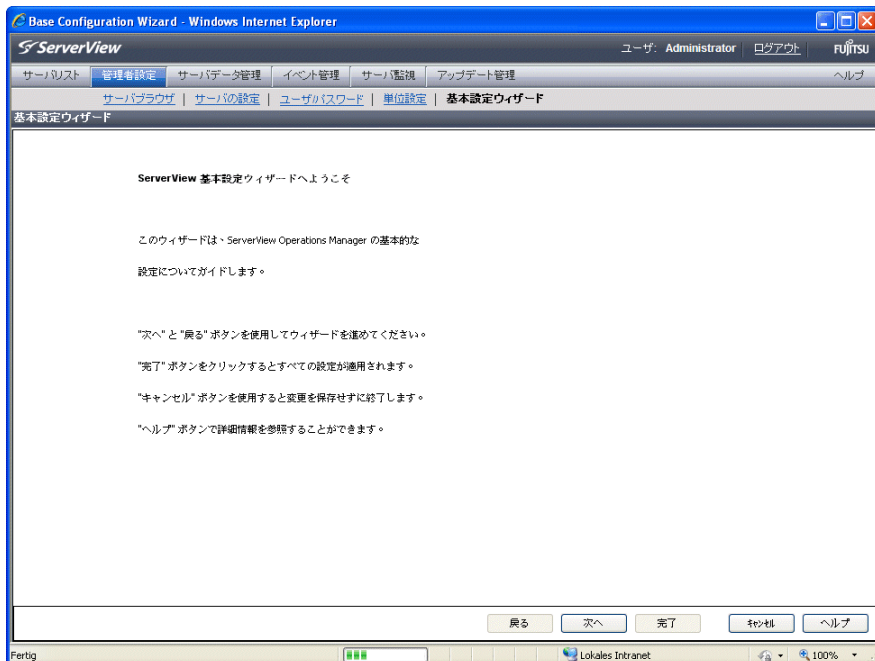


図 1: 基本設定ウィザードのメイン画面

新規インストール後初めて ServerView Operations Manager を起動すると、基本設定ウィザードが自動的に起動します。自動的に起動しないようにするには、「次回起動時にこのウィザードを自動的に表示しない」オプションを選択します。ウィザードを最後まで実行するか、これを有効にすると、チェックボックスは表示されなくなります。

基本設定ウィザードは、Operations Manager の開始ページまたは ServerView のメニューバーからいつでも起動できます。このため、管理者権限を持つユーザとしてログインしている必要があります(ユーザ: administrator)。

「次へ」ボタンをクリックし、設定のためのさまざまなステップを開きます。

- 「**必要条件**」ステップ
- 「**サブネット**」ステップ
- 「**アクセス制御**」ステップ
- 「**イベント管理**」ステップ
このステップは、管理端末に ServerView Event Manager がインストールされている場合のみ利用できます。
- 「**アップデート管理**」ステップ
このステップは、管理端末に ServerView Update Manager がインストールされている場合のみ利用できます。
- 「**しきい値管理**」ステップ
- 「**設定の確認**」ステップ
- 「**完了**」ステップ

すべての必要なステップは、左側にツリー構造で表示されます。このビューは中央の境界線にある矢印(<>)を使って表示したり隠したりできます。該当するステップの設定は右側に表示されます。

Event Manager だけが管理端末にインストールされている場合は、「**必要条件**」ステップ、「**イベント管理**」ステップ、および「**設定の確認**」ステップのみが表示されます。

2.1 「必要条件」ステップ(基本設定ウィザード)

「必要条件」は、ウィザードの最初のステップです。このステップでは、Operations Manager の要件を確認できます。次の要件を満たしているようにします。

- 管理端末とすべての管理対象ノードで SNMP サービスが動作していること
- 必要なすべてのポート([ServerView Suite セキュリティホワイトペーパー](#) も参照) は、利用可能でファイアウォールでブロックされていないこと
- SNMP プロトコルがファイアウォールでブロックされていないこと
- インターネットブラウザで使用している JRE は最低次のバージョンであること



上記またはそれ以上のバージョンの Java がインストールされている場合、チェックボックスは自動的に有効化されます。

- 管理端末で使用している JRE は最低次のバージョンであること

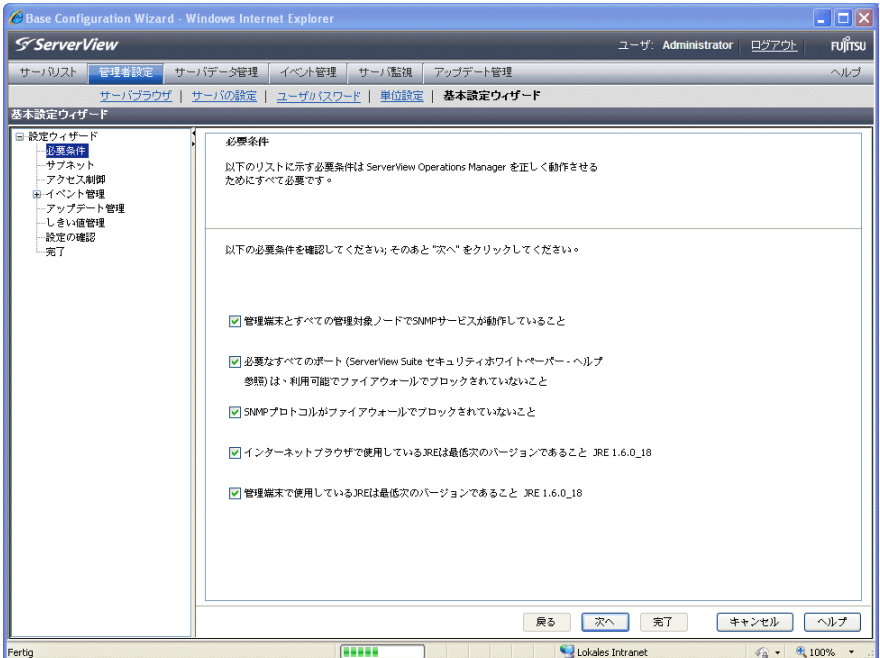


図 2: 「必要条件」ステップ

2.2 「サブネット」ステップ(基本設定ウィザード)

基本設定ウィザードの次のステップは「サブネット」です。

すべてのサーバが ServerView サーバリストに表示されます。新規オブジェクトを定義し、これらのオブジェクトをサーバリストへ追加できます。このステップでは、Operations Manager のサーバブラウザで検索操作を開始するネットワークエンティティを選択できます。

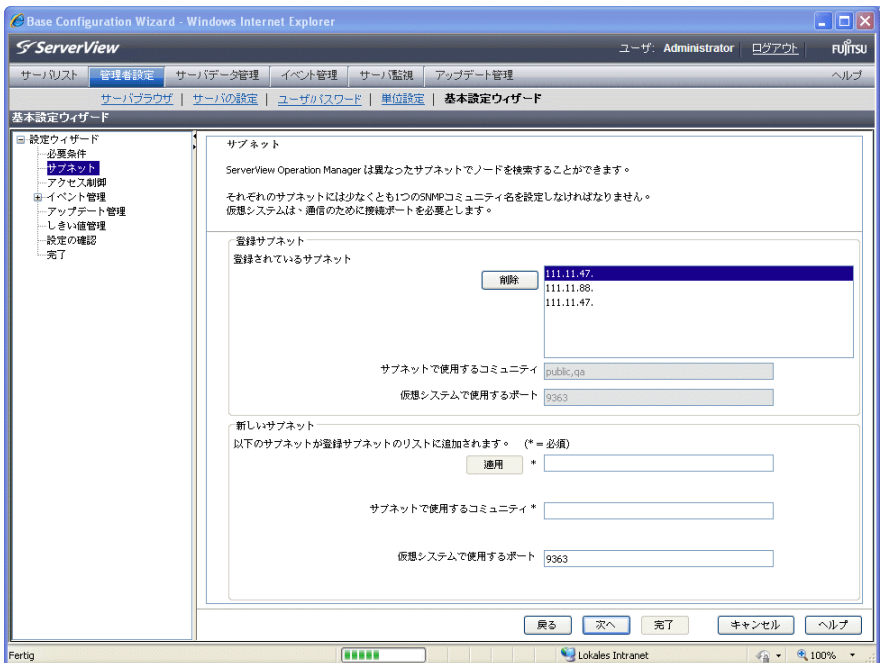


図 3: 「サブネット」ステップ

登録されているサブネット

サブネットリストで使用されているサブネットをすべて表示します。

削除

このボタンを使って、選択したサブネットを削除します。

サブネットで使用するコミュニティ


選択したサブネットに使用されるコミュニティを表示します。

仮想システムで使用するポート

仮想システムに使用されるポートを表示します。デフォルト値は 9363 です。


以下のサブネットが登録サブネットのリストに追加されます。

新規サブネットアドレスを「x.y.z」(IP アドレスの最初の 3 部分)の形式で入力します。

-  新規サブネットを設定した場合、検索は自動的に開始しません。「サーバブラウザ」プロパティ画面の「**検索開始**」ボタンから、検索を開始します。「サーバブラウザ」画面を開くには、「**管理者設定**」の「サーバブラウザ」を選択します。

サブネットで使用するコミュニティ

このサブネットで使用するコミュニティです。これは、SNMP を設定中に管理対象サーバ上で指定されたコミュニティです。

-  複数のコミュニティをコンマで区切って続けて指定できます。コミュニティ名にすでにカンマが含まれている場合、カンマは前もってバックスラッシュ¥を使って区切ってください(例: commwith¥,string)。大量のコミュニティを指定すると検索処理の速度が落ちますのでご注意ください。同様に、間違ったコミュニティを使ってアクセスすると認証の失敗アラームが発生します。

仮想システムで使用するポート

仮想システムのポートを指定します。デフォルト値は 9363 です。

適用

このボタンを使って、新規サブネットを追加します。

2.3 「アクセス制御」ステップ(基本設定ウィザード)

基本設定ウィザードの次のステップは「アクセス制御」です。

次の場合は、ServerView Operations Manager で、管理対象サーバで情報を要求するか、操作を実行する際、自身を認証するために有効なユーザ ID が必要です。

- 特定のオブジェクトをサーバリストへ追加する場合。
- 電源管理のため、管理端末から個々のサーバとサーバグループの電源を投入および切断する場合。
- Threshold Manager で、管理端末経由でサーバを監視する場合。



これらの機能を実行するには、対応するユーザ/パスワードの組み合わせが、必要な権限を持つ管理対象オブジェクトに格納されている必要があります。

次の表に、この有効なユーザ/パスワードの組み合わせを、ServerView Operations Manager のユーザ/パスワードリストに入力する必要があるオブジェクトを示します。

機能	オブジェクト	権限
サーバリストへのオブジェクトの追加	BMC	読み取り権限
	VMware サーバ	
	Xen サーバ/Citric Xen サーバ	
	Hyper-V サーバ	管理者権限
	ETERNUS DX60/DX80	標準の権限または管理者権限
電源管理	BMC 搭載の PRIMERGY サーバ	管理者権限
	VMware サーバ	
	Xen サーバ/Citric Xen サーバ	
	Hyper-V サーバ	
Threshold Manager	すべての管理対象サーバ	有効なユーザ ID

このユーザ/パスワードリストは、ServerView Operations Manager で作成することもできます(「管理者」メニューの項目「ユーザ/パスワード」)。

1 行に値を入力すると、次の行が有効になります。最後の行に値を入力すると、追加の行が表示されます。



ServerView Operations Manager では、リスト内のエントリが順番に処理されます。このため、リストには、必要な数のエントリだけを含めてください。

2 基本設定ウィザードのメイン画面

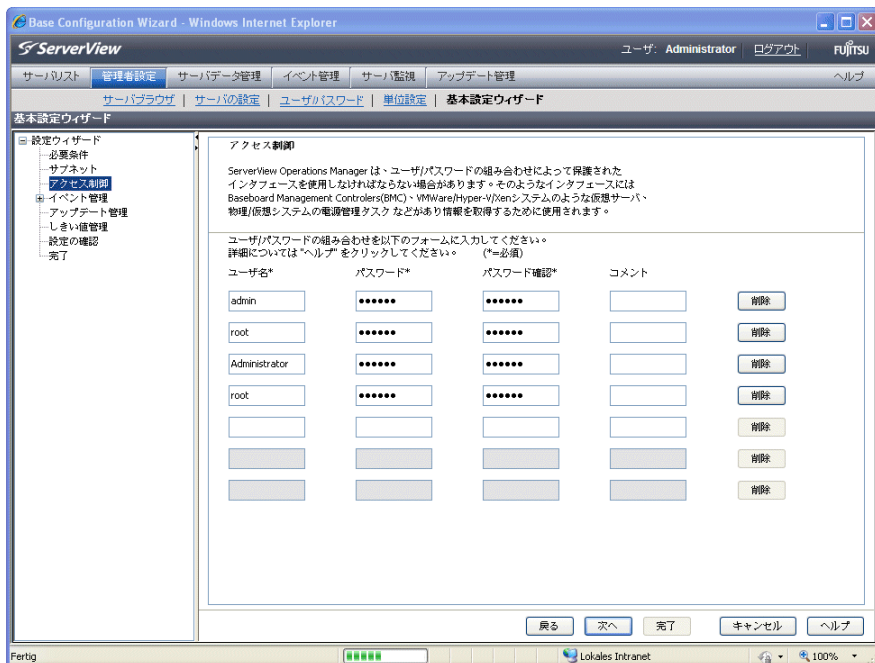


図 4: 「アクセス制御」ステップ

ユーザー名

ユーザー名です。

パスワード/パスワード確認

対応するパスワードです。

コメント


任意指定: アカウントについてのメモです。

削除

このボタンを使用して、ユーザ認証を削除します。

2.4 「イベント管理」ステップ(基本設定ウィザード)

基本設定ウィザードの次のステップは「イベント管理」です。

-  このステップは、管理端末に ServerView Event Manager がインストールされている場合のみ利用できます。Event Manager は、ServerView Suite のイベント管理のコンポーネントであり、次のように機能します。エージェントから SNMP を介してアラーム(トラップ)が Event Manager に送信され、予期しないイベントが発生したことが管理端末に通知されます。予期しないイベントは、エラー報告や、しきい値のトリップにより発生した状態の変化があります。詳しくは、ServerView Suite DVD 2 に入っている Event Manager のマニュアルを参照してください。

この後のステップを使って、受信するアラームメッセージ(イベント)の処理を行い、メールの転送設定を定義できます。すべての設定は、ServerView Event Manager で後で変更できます。

2 基本設定ウィザードのメイン画面

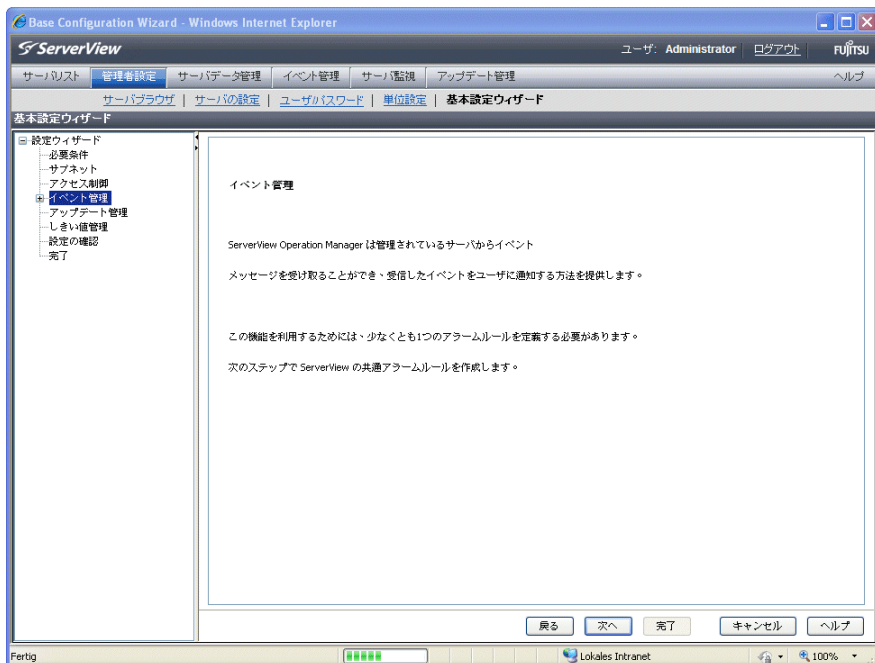


図 5: 「イベント管理」ステップ

2.4.1 「共通設定」ステップ(基本設定ウィザード)

基本設定ウィザードの次のステップは「共通設定」です。

このステップでは、アラーム処理の共通設定を定義できます。受信するアラームメッセージ(イベント)に対して実行するデフォルトの処理を定義できます。

- アラームをログする
- メッセージをポップアップ表示する
- アラームモニタ画面を表示する

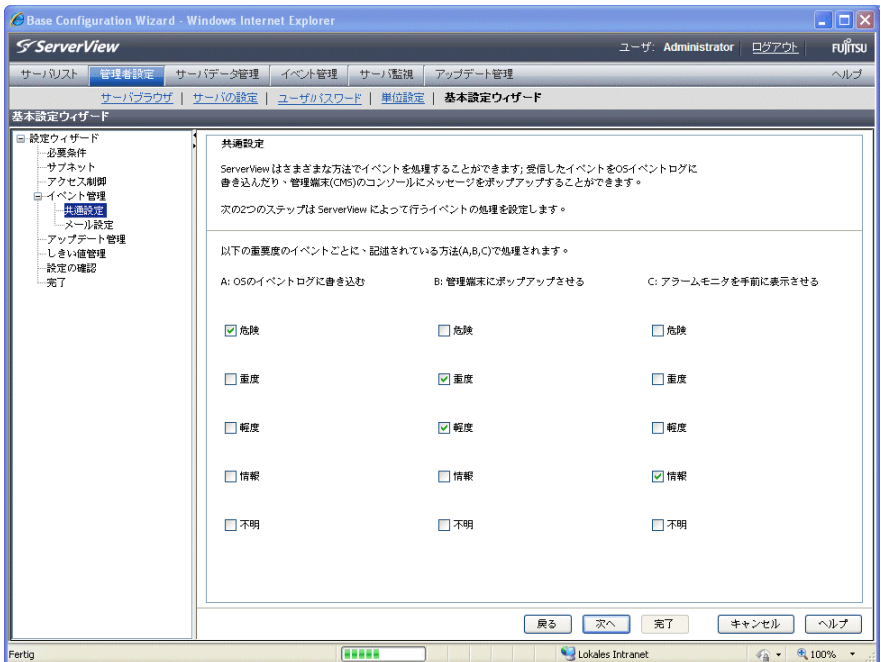


図 6: 「共通設定」ステップ

OS イベントログに書き込む

さまざまなエラー重要度に対し、アラームは OS イベントログリストへ書き込まれます。

管理端末にポップアップさせる

さまざまなエラー重要度に対し、アラームメッセージは管理端末上の(非モジュール)ポップアップ画面へ出力されます。

アラームモニタ画面を手前に表示させる


アラームモニタがすでに起動している場合、さまざまなエラー重要度に対してアラームモニタ画面が前面に現れます。アラームモニタは、ServerView Event Manager のコンポーネントです。Operations Manager のメイン画面で選択したサーバおよびサーバグループに関連して受信したアラームがすべて表示されます。

どのような組み合わせも可能です。

2.4.2 「メール設定」ステップ(基本設定ウィザード)

基本設定ウィザードの次のステップは「メール設定」です。

このステップでは、サーバリスト内の任意のサーバからの重大なアラームを電子メールで転送するかどうかを指定できます。転送を有効にする場合は、対応する電子メールの設定を行う必要があります。

-  このステップでは、最初のアラームルールを定義します。アラームルールでは、どのアラームをどのサーバからどの宛先に転送するかを定義します。アラーム設定コンポーネントでさらに詳細な設定を定義できます。このコンポーネントは、ServerView Event Manager のコンポーネントです。アラームルールやフィルタルールを定義することで、アラームの表示やアラームの処理を指定できます。また、フィルタルールで、どのサーバからのどのアラームを除外するかも指定できます。

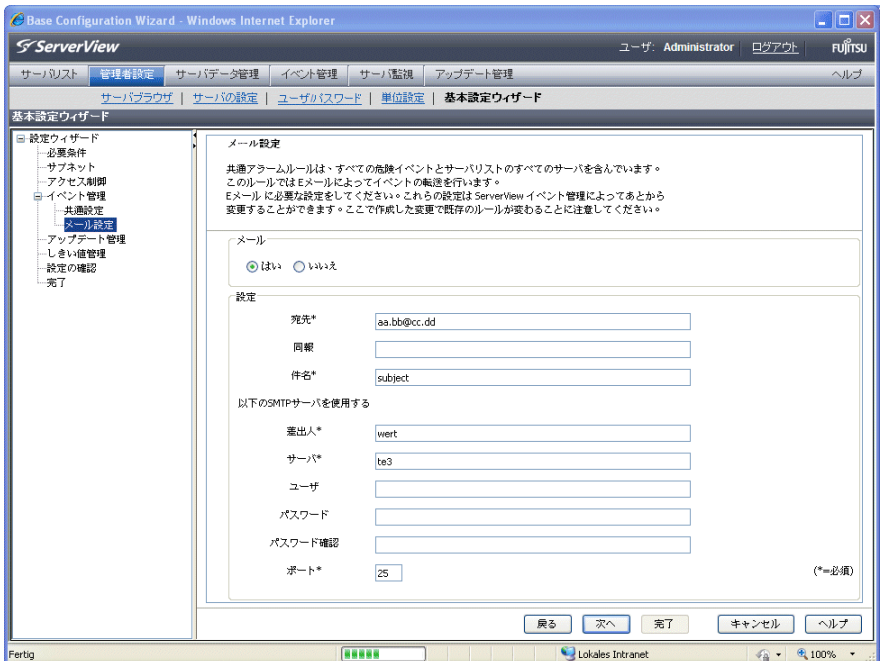


図 7: 「メール設定」ステップ

メール

- はい アラーム転送を有効にします。
いいえ アラーム転送を無効にします。

設定

- 宛先** アラームを送信する電子メールアドレスです。複数のアドレスがある場合には、セミコロン(;)またはカンマ(,)で区切って指定します。
- 同報** アラームのコピーを送信する電子メールアドレスです(オプション)。
- 件名** メールの件名です。件名にはマクロを含めることができます。マクロは、アラームを報告しているサーバに関する該当情報に置き換えられます。
- `$_SRV` サーバの名前
- `$_TRP` アラームメッセージのテキスト
- `$_TYP` アラームの簡単な説明
- `$_IPA` サーバの IP アドレス
- `$_CTY` コミュニティ
- `$_SEV` アラームの重要度
(危険、重度、軽度、情報、不明)
- `$_TIM` タイムスタンプ(形式: yyyy-mm-dd-hh.mm.ss)。アラームが転送される管理用サーバのローカルタイムスケジュール
- `$_IDN` サーバの ID 番号

以下の SMTP サーバを使用する

差出人	送信者
サーバ	SMTP サーバ
ユーザ	ユーザ名(オプション)
パスワード	メールシステムの識別(オプション)
パスワード確認	パスワードの確認(オプション)
ポート番号	ポート番号。デフォルト値は 25 です。

2.5 「アップデート管理」ステップ(基本設定ウィザード)

基本設定ウィザードの次のステップは「**アップデート管理**」です。



このステップは、管理端末に ServerView Update Manager がインストールされている場合のみ利用できます。Update Manager は、ServerView Suite のアップデート管理のコンポーネントです。Update Manager は、PRIMERGY サーバにあるハードウェアおよびソフトウェアコンポーネントのオンラインアップデートを管理します。Update Manager は、サーバのアップデートパッケージすべてを含んだアップデートリポジトリを使用します。

詳しくは、ServerView Suite DVD 2 に入っているアップデート管理のマニュアルを参照してください。

このステップでは、アップデートリポジトリを自動的に更新するかどうかを設定できます。また、アップデート管理のコンポーネントである**設定ウィザード**を起動することもできます。これを使って、アップデート管理のグローバルパラメータを設定できます。

2.5 「アップデート管理」ステップ(基本設定ウィザード)

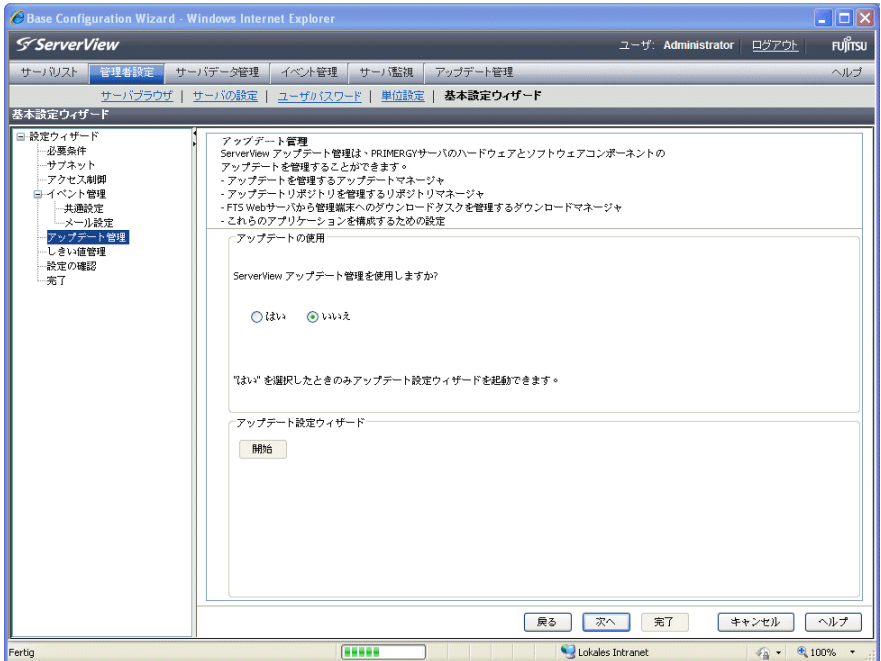


図 8: 「アップデート管理」ステップ

ServerView アップデート管理を使用しますか?

はい デフォルト設定です。ServerView Update Manager の使用を有効にします。

いいえ ServerView Update Manager の使用を無効にします。

開始

このボタンを使って、設定ウィザードを起動します。ServerView Update Manager の「はい」オプションを有効にした場合に、設定ウィザードを起動できます。

2.6 「しきい値管理」ステップ(基本設定ウィザード)

基本設定ウィザードの次のステップは「しきい値管理」です。

このステップでは、パフォーマンスの監視としきい値の管理を有効または無効にできます。

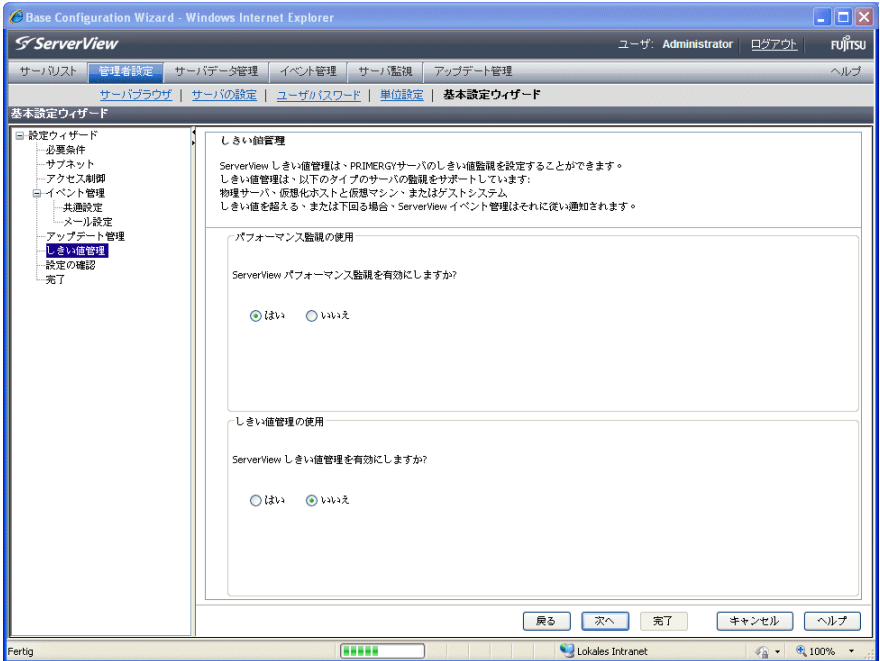


図 9: 「しきい値管理」ステップ

ServerView パフォーマンス監視を有効にしますか?

はい パフォーマンス監視を有効にします。

いいえ デフォルト設定です。パフォーマンス監視を無効にします。パフォーマンス監視を無効にすると、管理対象ノードからパフォーマンスデータが収集されなくなります。

ServerView しきい値管理を有効にしますか?

はい しきい値管理を有効にします。

いいえ デフォルト設定です。しきい値管理を無効にします。しきい値管理を無効にすると、管理対象ノードからしきい値データが収集されなくなります。

2.7 「設定の確認」ステップ(基本設定ウィザード)

基本設定ウィザードの次のステップは「設定の確認」です。

このステップは、これまで設定してきた内容の要約を表示します。

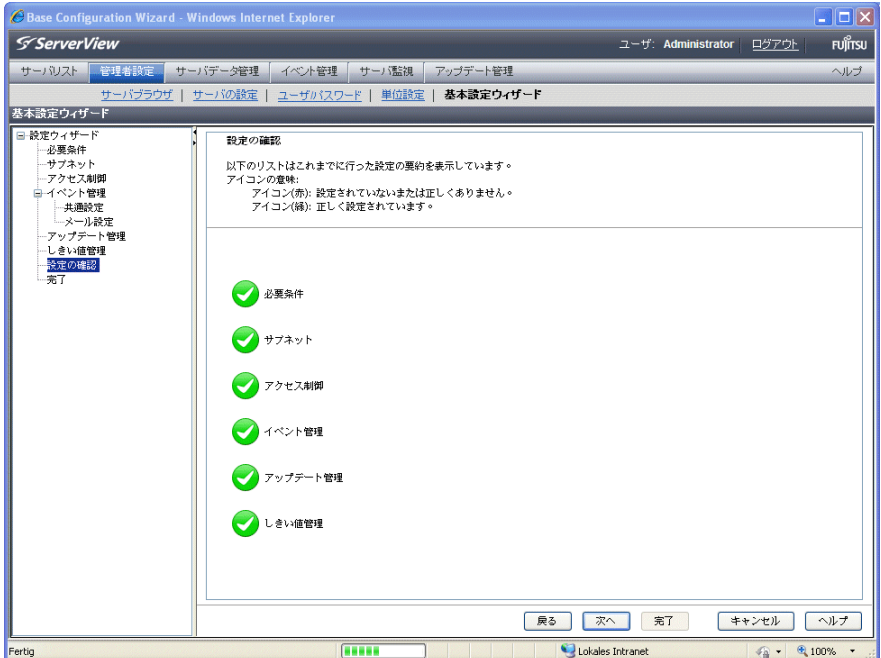


図 10: 「設定の確認」ステップ

アイコンの色の意味は次のとおりです。

2 基本設定ウィザードのメイン画面

緑	設定は問題ありません。
赤	設定は不十分であり、矛盾しています。該当するステップに戻り、設定を再度見直してください。

2.8 「完了」ステップ(基本設定ウィザード)

基本設定ウィザードの次のステップは「完了」です。

基本設定は完了しました。「完了」ボタンを使って設定をデータベースに格納します。

設定は、ウィザードまたは対応する ServerView コンポーネント(ServerView Operations Manager、ServerView Event Manager、または ServerView Update Management) を使用して、後で変更できます。

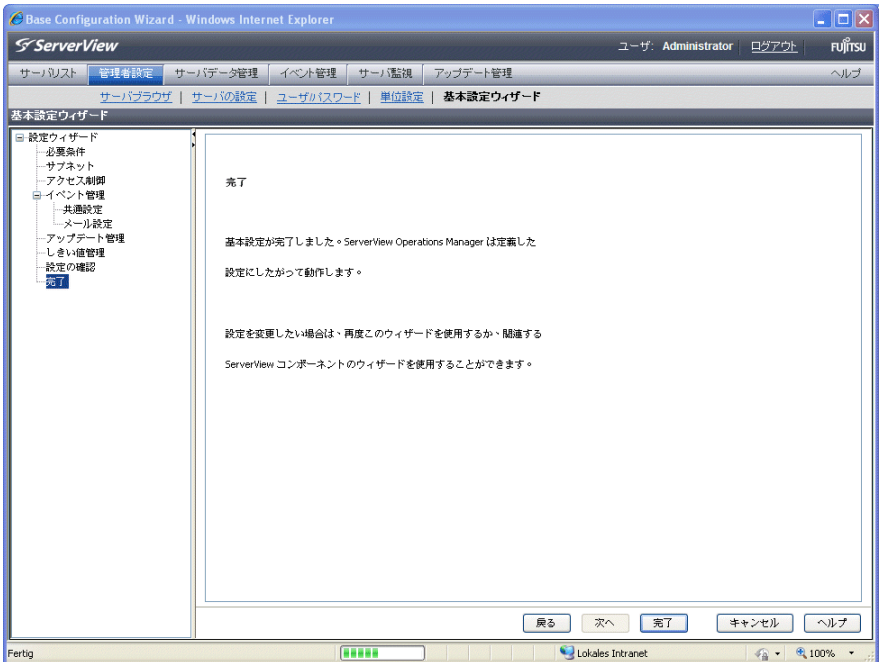


図 11: 「完了」ステップ

完了

ウィザードを終了します。設定はデータベースに格納されます。

キャンセル

設定を保存せずにウィザードをキャンセルします。

3 基本設定ウィザードの使用

この章では、基本設定ウィザードの開始と終了の方法について説明します。

また、ServerView Operations Manager の要件の確認方法と基本設定の定義方法についても説明します。

3.1 基本設定ウィザードの開始

ServerView Operations Manager では次の 2 通りの方法で基本設定ウィザードを開始できます。

- ServerView Operations Manager の開始ページで、「**管理者設定**」の「**基本設定ウィザード**」を選択します。
- ServerView メニューバーで、「**管理者設定**」の「**基本設定ウィザード**」を選択します。



インストール後に初めて Operations Manager を起動すると、基本設定ウィザードが自動的に表示されます。

3.2 基本設定ウィザードの終了

基本設定ウィザードは、ウィザードの「**完了**」ステップから終了できます。

1. 左のナビゲーションエリアで「**完了**」ステップに切り替えます。
2. 「**完了**」ボタンをクリックし、ウィザードを終了します。

設定を保存せずにウィザードを終了するには、「**キャンセル**」ボタンをクリックします。

3.3 ServerView Operations Manager の設定の定義

基本設定ウィザードを使用すると、ServerView Operations Manager の要件を確認し、次に示す基本設定を定義できます。

- 新規オブジェクト検索のための新規サブネットを追加します。
- ユーザ認証のためのユーザ/パスワードリストを指定します。

3 基本設定ウィザードの使用

- ServerView Event Manager の設定を定義します。ServerView Event Manager がインストールされている場合のみ、これらの設定を定義できません。
- ServerView Update Manager の設定を定義します。ServerView Update Manager がインストールされている場合のみ、これらの設定を定義できません。

3.3.1 ServerView Operations Manager の要件の確認

ServerView Operations Manager が正しく機能するための要件を確認できます。

1. 基本設定ウィザードを開始します。
2. 「次へ」をクリックします。
3. 左のナビゲーションエリアで「**必要条件**ステップに切り替えます。
4. システムと管理対象ノードが、一覧表示されているすべての要件を満たしているかどうかを確認します。
5. 左のナビゲーションエリアで「**完了**」ステップに切り替えます。
6. 「**完了**」をクリックして設定を保存します。

3.3.2 検索操作用サブネットの指定

「サーバリスト」画面が、ServerView Operations Manager のメイン画面です。この画面には、設定されたサーバすべての概要が表示されます。また、この画面から、すべての管理操作を開始します。新規オブジェクトを定義し、これらのオブジェクトをサーバリストへ追加できます。

3.3.2.1 新規サブネットの追加

検索操作用の新規サブネットを追加できます。

1. 基本設定ウィザードを開始します。
2. 「次へ」をクリックします。
3. 左のナビゲーションエリアで「サブネット」ステップに切り替えます。
4. 「新規サブネット」の下で新しいサブネットを入力します。
5. サブネットに使用するコミュニティを入力します。
6. 任意指定: 仮想システムで使用するポートを入力します。
7. 「適用」をクリックし、新規サブネットを追加します。サブネットが登録サブネットのリストに表示されます。
8. 左のナビゲーションエリアで「完了」ステップに切り替えます。
9. 「完了」をクリックして設定を保存します。

3.3.2.2 サブネットの削除

既存のサブネットを削除できます。

1. 基本設定ウィザードを開始します。
2. 「次へ」をクリックします。
3. 左のナビゲーションエリアで「サブネット」ステップに切り替えます。
4. 「登録されているサブネット」に表示されているリストからサブネットを選択します。
5. 「削除」をクリックします。
6. 左のナビゲーションエリアで「完了」ステップに切り替えます。
7. 「完了」をクリックして設定を保存します。

3.3.3 ユーザ/パスワードリストの作成

ServerView Operations Manager では、管理対象サーバで情報を取得するか、操作を実行する際、自身を認証するために有効なユーザID が必要となる場合があります。

ユーザ/パスワードリストを作成するには、以下の手順に従います。

1. 基本設定ウィザードを開始します。
2. 「次へ」をクリックします。
3. 左のナビゲーションエリアで「アクセス制御」ステップに切り替えます。
4. ユーザ名を入力します。
5. パスワードを入力し、確認のために再入力します。
6. 任意指定: アカウントの説明を入力します。
7. 左のナビゲーションエリアで「完了」ステップに切り替えます。
8. 「完了」をクリックして設定を保存します。

3.3.3.1 ユーザ認証の削除

定義されているユーザ認証をユーザ/パスワードリストから削除できます。

1. 基本設定ウィザードを開始します。
2. 「次へ」をクリックします。
3. 左のナビゲーションエリアで「アクセス制御」ステップに切り替えます。
4. 該当する行の横の「削除」をクリックします。
5. 左のナビゲーションエリアで「完了」ステップに切り替えます。
6. 「完了」をクリックして設定を保存します。

3.3.4 メール設定の定義

ServerView サーバリストにあるすべてのサーバと重大なイベントに対してメール転送に関する設定を定義できます。

1. 左のナビゲーションエリアで「**メール設定**」ステップに切り替えます。
2. 「はい」を選択して転送設定を有効にします。
3. 電子メールアドレスを入力します。
4. 任意指定: アラームのコピーを送信する電子メールアドレスを入力します。
5. メールの件名を入力します。

メールサービスに SMTP を使用する場合は、追加設定を定義します。

1. 送信者を入力します。
2. SMTP サーバ名を入力します。
3. 任意指定: ユーザ名を入力します。
4. 任意指定: メールシステムの識別を入力します。
5. 任意指定: パスワードを確認します。
6. ポート番号を入力します。デフォルト値は **25** です。

3.3.5 アラーム処理設定の定義

受信するアラームメッセージ(イベント) の設定を定義できます。

1. 左のナビゲーションエリアで「**共通設定**」ステップに切り替えます。
2. 該当するアラーム処理に対して、さまざまなエラー重要度を有効化します。どのような組み合わせも可能です。

4 ヘルプについて

Help の情報を表示します。

4.1 Help の呼び出し

Help の呼び出しにはいくつか方法があります。

- ダイアログボックスの情報: F1 キーまたは **Help** ボタン
- ウィンドウエリアに関する情報: 選択したエリアで F1 キー
- メインウィンドウに関する情報: ヘルプ/このページのヘルプ
- 現在のマネージャに関する情報: ヘルプ/<マネージャ>のヘルプ
- ServerView Suiteに関する情報: ヘルプ/目次

4.2 ウィザード

ウィザードはタスクを通じたアシスタントです。

通常、ウィザードは連続して操作する複数のセクションから成ります。使用するステップ数とその番号が画面の左にツリー構造で表示されています。各ステップで右下のボタンを使用してウィザードのワークフローを進めることができます。

次へ

ウィザードの次のステップへ進みます。

戻る

ウィザードの前のステップに戻ります。

キャンセル

変更内容を保存せずにウィザードをキャンセルします。

終了

設定内容でウィザードを実行します。

4.3 お気に入りへ保存


ヘルプでは2種類のお気に入りを保存できます。

- トピック
- 検索結果

4.3.1 トピックをお気に入りへ保存

1. 保存したいトピックを表示します。
2. Help画面でツールバーの  アイコンをクリックします。そのトピックへのリンクが「お気に入り」タブの「Favorite topics」に保存されます。

4.3.2 検索結果をお気に入りへ保存

1. Help画面で「検索」タブを開きます。
2. 検索する文字列を入力します。
3. **検索**をクリックします。関連性のあるトピックが表示されます。
4. 検索ボックス右の  アイコンをクリックします。そのトピックへのリンクが「お気に入り」タブの「Favorite searches」に保存されます。

4.4 ヘルプの検索

次の手順で、ヘルプを検索できます。

1. ヘルプウィンドウのナビゲーションから、「**検索**」タブを開きます。
2. 検索する文字列を入力します。
3. 「**検索**」を選択します。入力した文字列が含まれるすべてのトピックとその関連度が表形式で表示されます。
4. 表内の項目をクリックします。右側のヘルプウィンドウにそのトピックが表示されます。トピック内では、検索した文字列が強調表示されます。

索引

	ウ	
「	ウィザード	39
「アクセス制御」ステップ	16	
「アップデート管理」ステップ	26	
「イベント管理」ステップ	19	
「サブネット」ステップ	14	
「しきい値管理」ステップ	28	
「メール設定」ステップ	23	
「完了」ステップ	31	
「共通設定」ステップ	21	
「設定の確認」ステップ	29	
「必要条件」ステップ	13	
F		
F1 キー	39	
H		
Help		
呼び出し	39	
O		
Operations Manager の要件	13	
S		
ServerView Operations Manager		
「サーバリスト」ウィンドウ	35	
ユーザ/パスワードリスト	16	
基本設定ウィザードの開始	33	
要件の確認	34	
ServerView サーバリスト		
オブジェクトの追加	14	
オブジェクトの定義	14	
	ト	
	トピック	
	お気に入りへ保存	40
	へ	
	ヘルプ	
	検索	40
	メ	
	メイン画面	
	基本設定ウィザード	11

キーワード

ユ

- ユーザパスワードリスト
作成 36
- ユーザ認証, 削除 36

開

- 開始
基本設定ウィザード 33

確

- 確認
Operations Manager の要件 13, 34

基

- 基本設定ウィザード
ServerView Operations Manager 33
から開始
メイン画面 11

検

- 検索
ヘルプ 40
- 検索結果
お気に入りへ保存 40

呼

- 呼び出し
Help 39

更

- 更新、アップデートリポジトリ 26

作

- 作成, ユーザ/パスワードリスト 16, 36

削

- 削除
サブネット 35
ユーザ認証 36

使

- 使用
基本設定ウィザード 33

指

- 指定
検索操作のサブネット 35

終

- 終了
基本設定ウィザード 33

処

- 処理
受信メッセージ 19

設

設定

Update Manager	26
アップデート管理のパラメータ	26
アラーム処理	21
電子メールの転送	23

追

追加

オブジェクトをサーバリストへ	14
新規サブネット	35

定

定義

ServerView Operations Manager	33
の設定	
アラーム処理の設定	21, 37
メール転送の設定	19, 23, 37
新規オブジェクト	14

表

表記規則	8
------	---

保

保存

お気に入り	40
-------	----

有

有効なユーザ ID	16
-----------	----

